

ヤングケアラー実態調査の実施について

調査の意義

子ども・若者を誰一人取り残さずに大切にすまちを目指すため、社会的な課題となっているヤングケアラーの実態を把握し、切れ目のない支援を構築するための基礎資料とする。

調査対象・方法

○対象

市立小学校(特別支援学級含む)の5・6年生	約2,300名
市立中学校(特別支援学級含む)の全学年	約3,200名
市内在住の高校生世代(16～18歳)全員	約3,700名
計	約9,200名

○方法

小中学生 ……QRコード付きの案内文を学校で配布
GIGA端末を利用し、学校で回答。(紙の調査票も準備)
高校生世代……郵送でQRコード付きの案内文を送付。
WEB回答を主とする。(紙の調査票と返信用封筒も同封)

○調査様式

別紙 参考様式参照
※中学生向けの様式のみ添付しています。小学生～高校生で内容は大きく変わりません。

調査項目・報告書内容

○調査項目

・選択式約20問、自由記載1問程度
・最終項目で支援が必要な人が助けを求められるよう、任意で記名できる項目を設定
→記名があった子どもに対し、子ども家庭支援センターが中心となり、学校の協力を得ながら面談、支援策の検討を行う。

○報告書

・単純推計、基本属性等によるクロス集計、分析
・市の課題の提示、課題解決に向けた提案

スケジュール

令和4年11月下旬	}	アンケート調査実施
令和4年12月中旬		
令和4年12月下旬	}	支援が必要な子どもの情報を子ども家庭支援センター・学校と共有 支援を開始
令和5年2月下旬		
令和5年2月下旬		報告書完成